常磐毎日
発行所 平市田町75
新聞社 日曜用 1-210
営業部 1-269
編集部
本社 平市二の二九(一本町通り) 電話(平)三五五
分社 磐城 駅前天王崎(常磐)四〇一

叶産婦人科

中小企業の退職金制度

二十%まで国庫負担

常磐商議所で意見書提出

中小企業従業員の退転金制度を規定しようと検討を進めている労働省の成案に対して、常磐市商工会議所では労働特別委員会を開いて審議した結果次のような意見書を日商を通してこのほど提出した。その内容は『中小企業従業員の退転金は二〇パーセントまで国家で負担すべきである』など全部で十五項目にわたっており、その実施は各方面で大いに論議されているときだけに注目を集めている。

意見書の内容

❶名称については従業員という字を削除する
❷事業主及び従業員などの退職に対する給付に関する事業という字を挿入する
❸福祉増進は原則として多額の資金を固定させるような施設を設ける
❹掛金は一口三〇〇円若しくは倍額であるが従業員の加入口数については支払給与額または勤続年数によって口数を指定する
❺給付金額は一口につき二十年で二十万円程度の給与額と勘算されるが更に増額するよう考慮する
❻給付の際は必ず事業主を経て支給されるよう取り計られたい
❼事業主の停年六十才とあるのは望ましいが、従業員の停年を五十五才としている慣例から事業者の停年を五十五才とし将来の労使協議に委ねること
❽掛金の通算は一事業場の勤続年数をもって退職金支給の取扱いを行い通算制度は行わない
❾法施行前の勤続年数の通算は十年を限度として給掛金の二分の一納入することにより過去の勤続年数を認めるようにする
❿事務組合は加入の申込、脱退の通知、掛金の納付などの事務を処理する事務組合の外に掛金の納付については地元金融の活用を考慮する
⓫掛金は出来るだけ地元にあるよう措置し、加入事業主に還元するよう考慮する
⓬事業団の支所を設置する
⓭事務費は全額、退職金は二十%、福祉増進資金の固定化する実情より五十%をそれぞれ国庫負担とする
⓮通商産業省、労働省の共管とする
⓯滞納を防ぐための強力な措置を講ずる

平一小十 平第一小学校の十二月行事 二月行事予定表は次のとおり

◇一日石城地区小学校長会議◇三日国語研究会◇四日石城地区小学校長会議◇五日珠算競技会◇六日創作コンクール、冬休み生活懇談会、統計教育県大会◇八日選挙啓発会、職員レントゲン検査◇十日文化講座◇十一日、十二日銀行◇十三日社会教育学級総会◇十五日掲示板◇十七日町内クラブ会◇十九日PTA会議◇二十日通信簿提出◇二十二日体重測定◇二十三日給食記念日、子供会総会◇二十四日終業式◇二十五日冬季休暇クリスマス◇二十六日内小中校長研修視察◇二十七日東洋大図定期習(二小)(中)

高木さんら知事賞

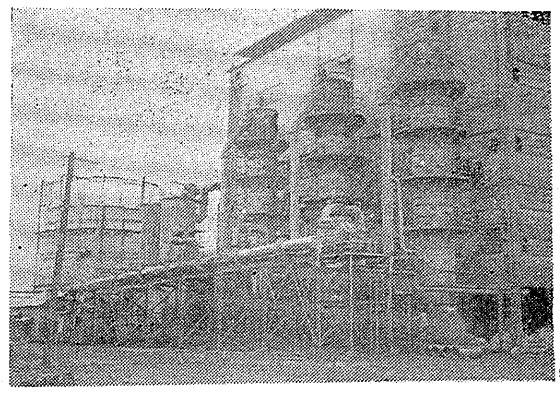
常磐 文化祭入賞者決る

秋の行楽最後をかざる常磐市総合文化祭は、さる二十日から市内四本公民館、一小、湯本商校で開かれたが、陳列出品数は六百余点に達し、二十八日午後から行った審査の結果、入賞者が次のとおり決った。

◇知事賞(二点)高木芳久(稲栄)佐藤ひろ奥(白岩)◇市長賞(十点)高木稲水(玄米)鈴木茂平(白岩)大田原栄(玄米)高木稲水(大豆)大平善徳(大根)酒井清(同)磯上恵登(人参)大田原栄(白菜)大井川稲一(人参)大井川稲一(ほたん)酒井一郎(こんにゃく)高木芳久(里いも)比佐国男(甘藷)舟橋福蔵(大豆)小久保司(小豆

（第三種郵便物認可）　（定価一ケ月80円・一部売5円）　常盤毎日新聞　昭和33年11月29日（土曜日）　（2）

常磐開発の歩み ⑤



【写真は天然ガス利用第一号の日本水素のコンベヤー炉】

労働者は同炭田で約二万五千人だが、その過半数は年間一万トン以下の冷細炭鉱のため、生活基盤はあまり楽でない。

また力ロリーも五千台であるのと全国に比較して低品位であるため、主な用途はボイラー用に限られ、不況は真先に弱小炭鉱の閉山となって現われ、貯炭も戦後の最高記録である二十万トンに達し、山元では売れない石炭を大量にもちかかえて四苦八苦いうた状態で、多量のボタ掘出とともに将来に大きな問題を投げている。

このため各炭鉱とも着炭りのため企業化を進め、昨年発足した勿来火力発電はその一つの現れである。この勿来をはじめたために火力発電、燃料ガス化、製鉄化、合成ガス化などの試験研究が続けられていることと、今後炭鉱開発によって炭鉱現場でも必然的に大きくなることが約束されている。

天然ガス　常磐炭田の可燃性ガスはこれまで一部のものが利用していた過ぎなかったが、最近においたり天然ガスの化学工業原料利用化が急速にたかまり一躍脚光を浴びてきた。まず三十一年に東北地方資源開発調査の一環として実施された採掘調査により明らかにされ、開発が進められている。調査による平市周辺から茨城県日立市付近まで約四百平方メートルの広い範囲にわたるガス田が解明された。

現在までに各鉱ガス徴、採炭ボーリングの結果から噴出、坑内ガスの賦存状態を総合して容積法による埋蔵量を算定したところでは勿来地区七千九百平方キロ、泉地区一万二千五十八平方キロ、下船尾地区一千七百四十平方キロ、鹿島地区六千四百八十五平方キロ、中郷地区二千三百五十平方キロの面積に賦存していることが明らかにされている。

これら下船尾、鹿島地区には常磐炭礦、日本水素がボーリングして相当量のガスを発出をみているが、資料不足のため断定に断明されていないことと、ガス噴出状態が非常に複雑であることなど今後の調査にまたなければならない。

石炭に次ぐエネルギー

天然ガスの開発も進む

石炭　同地区は双葉郡から茨城県多賀郡の南北百キロ、東西（陸上）で五キロから二十五キロにまたがる常磐炭田の中心に位置し、出炭の大部分を占めている。同炭田の鉱区総面積は七万三千六百平方メートルを占め、わが国第五位、約十億トンの埋蔵量をもち、最近の出炭量は約四百万トンで双葉、石城北石城両、茨城県多賀の四ブロックにわかれ、石城地方では湯本と平地区が鉱業の中心部となっている。

石炭の大部分は古第三紀層に含まれ、褐炭、亜れき青炭および青炭の三種があり、いずれも非粘結で硫黄の含有量が比較的多く、灰分は一〇―二五％で、現在採行の対象となっている炭層は三枚であるが、炭層のよく発達している地区は石城北部および多賀地区で両者とも特に下層の発達がよい。炭質は石城北部が最もよく、また最も炭化が進んでいる。

炭層の深度に比例して炭化は進み発熱量が増加し水分は減少している。また深度が増して炭丈が増やせば灰分は減少する傾向にあり、今後各地区とも深度が加すにつれて良質、厚層の石炭を期待できる。海底に関してはまったく未開発でもあるとともに、同炭田が常磐総合開発を推進するうえにドル獲的な存在となっている。

同炭田の稼行をみると炭層傾斜は一般に十度から二十度のため大部分の炭鉱は斜坑による採掘方法を採用し、稼行平均深度は三百五十メートルで全国的にみて、そう深いほうではないが平均運搬距離は一千九百メートルで全国で最も短い。採炭技術は飛躍長壁式が普及し、それにともなう鉄柱、カツベの使用も多くなった。

主要炭鉱における選炭方式の大部分はジグかベルトによる機械選炭を行い、一部で風選選炭機を使用している。また各炭鉱の切羽は湧水量が一般に石炭トン当り〇・五立方メートルから五立方メートルだが石城北部地区、とくに常磐、吉間坑間両炭鉱では二十度から六十度の温泉が多量に湧出し、採炭上の大きな障害となっている。

同地区には六十三炭鉱で年間二百三十四万六千六百二十四トン（三十一年度）の出炭を行い年間百万トン以上の出炭は二、一万トン以上は一八、一万トン以下は四十三炭鉱となっている。

女侠一代

映画

中映館
上平

男の中の男も負ける女傑島村ギンも所詮は女であつた一北九州の雄大なスケールと鉄道敷設の荒々しい激斗の中に西部劇的要素を盛り込み、おおらかに熊いあげる女侠の一大ロマン。

物語＝鉄道が蒸気と呼ばれた明治中頃の話。九州筑豊炭田から採炭された石炭は総て遠賀川の川舟で運搬されていたが、蒸気の出現が乏しとうて代らうとしていた。それは川舟船頭にとうて生活権を失う大問題だけに激しく抵抗した。その争いは筑豊炭鉱の裏面にまで深く根を張り、将前の成否に死命を制されていた。

今日も若い衆と川舟船頭との間に危険な血の雨が降らんとした時、かたくなに拒絶するギンの心を解きほぐしたのは、ギンの幼馴染で、吉河妍間両炭鉱の大部分の炭鉱を一手に引受けている大立者の川上の息子、豪傑肌の若者、伝次郎であつた。

両者の中に挿つて入り、丸く収めたギン、そのギンの気性を買つた汽車製造の川上は、根本的に川舟船頭との問を解決するため船頭の元締頭格の貸松親分との掛け合いをギンに頼み、成功の暁にはその代償として永久に鉄道敷出入を約するのだった。

喜び勇んで単身鋼鉄の親分の所へ乗込んだギン、だが玄関お島の好意あるとり計らいにも関らず、小細工はするなと一喝して門前払いにも似た扱いだった。

ギンの腕力を待ち伏せた川舟船頭数人に取り囲まれた